

豊平河畔

北海道社会保険病院

だより



病院理念

患者さんを中心にした質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、人間愛を基調とした医療に努めます。
2. 安全で安心できる医療に努めます。
3. 説明と同意を基本とする医療に努めます。
4. 地域の医療・福祉施設との連携を推進します。
5. 地域の健康増進を目指し、保健予防活動を推進します。



Dr.からの ワンポイントアドバイス

安全な肝切除のために

消化器外科部長 中西 一彰



肝臓はお腹の右上にあり、肋骨に囲まれている1～1.5kgと人間の臓器の中では最も重い臓器です。蛋白や凝固因子の合成、エネルギーの合成・貯蔵、解毒、胆汁の産生など、生命維持に欠かせない重要な働きをしています。その一部を切り取るのが肝切除です。正常の肝臓では、60-70%切り取っても大丈夫とされていますが、大きく切除しすぎると残りの部分で生命を維持できない状態(肝不全)になる危険があります。どのくらい切除できるかという肝臓の力を“肝予備能”といい、いろいろな検査を組み合わせで判断します。一方、腫瘍の種類、個数、部位により切除すべき範囲が決まり、それに応じて部分切除、亜区域切除、区域切除、葉切除などの肝切除の種類(術式)があります。手術に際しては、予備能と切除範囲・術式のバランスを正確に評価することがきわめて重要です。当院ではCT画像を用いて、病変部位の描出のみならず仮想血管像を描出し、切除予定の肝容積、残存する予定の肝容積(残肝容積)を計算します。さらに肝シンチグラフィーによる画像を用いて肝細胞機能を評価して、残存肝機能を推測することによって肝切除の安全性を高めています。術中はそれらの画像をもとに腫瘍を栄養する血管を縛ったり、目印となる血管に色素を注入したりして切除範囲を見極め、電気メス、ハーモニックスカルペル(超音波振動メス)など、様々な機械を使って肝臓を切ります。

～疾患や病状に応じた肝切除を中心とした治療～

肝切除術の適応となる病気は、原発性肝がん(もともと肝臓に発生するがん)と転移性肝がん(他の臓器で発生したがんが肝臓に転移したもの)の一部、肝良性腫瘍、肝外傷などがあります。原発性肝がんの中で最も多い肝細胞がんでは、患者さんの多くはB、C型慢性肝炎や肝硬変などの慢性肝疾患を持っているため肝予備能が悪く、切除以外の治療が適切な場合もあります。肝切除を行う場合はがん細胞が肝内の血管(門脈)に沿って転移する傾向があるため、腫瘍を栄養する血管の領域をすべて切除する術式をとります。転移性肝がんは原発部位やその進展度などで治療方針が異なりますが、最も頻度の多い大腸がんからの肝転移例の手術成績は良好です。また抗癌剤の進歩によって、発見時に切除不能であっても腫瘍が小さくなったり個数が少なくなったりして切除が可能となる場合も多く見られます。肝がんの治療法の選択に当たっては、治療に関わる複数の診療科の医師が集まって相談し、個々について「最も適切な治療法は何か」ということを検討した上で、治療を行うようにしています。肝がんと診断された方は、一度当院へご相談ください。

320列CTを導入しました

地域連携相談室 本間 しのぶ

いつも、当病院のCTをご利用いただきありがとうございます。このたび、CT装置を16列より320列にバージョンアップしました。このCTの装置は1回転する間に各臓器の撮影ができるようになり、検査精度が上がっています。一般的なCTではできない動態(血流や呼吸、関節など)の観察ができるようになりました。

当病院には320列と64列の2台のCTがあります。320列のCTではその特徴を生かし冠動脈CTやカテーテルによる動態冠動脈造影検査を、64列CTではその他、手術前の精密検査や大腸仮想内視鏡検査に対応しています。より良い画像を提供できるよう放射線診断科の医師が検査方法を決めています。安全に検査を受けていただけるよう、検査前には医師が診察し造影剤の副作用にすぐ対応できるようにしています。また、造影剤注射時の漏れを感知する機械を使用し早期発見に努めています。

安心で安全な検査を受けていただけるように努力していますので、今後ともご利用のほどよろしくお願いいたします。

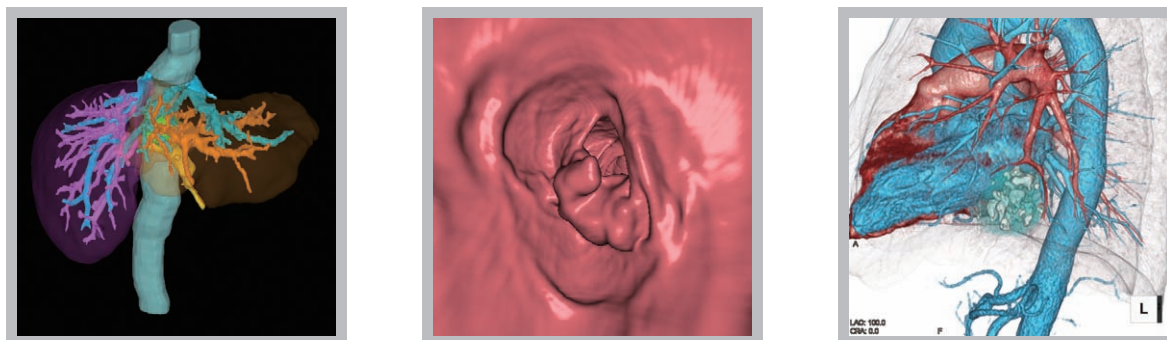
〈320列CT〉

左:冠動脈CT検査(造影剤18mlで撮影)、右:カテーテルによる動態肝動脈造影検査



〈64列CT〉

左:手術前シミュレーション(肝臓)、中央:大腸仮想内視鏡検査、右:手術前精密検査(肺腫瘍)



column

09

緩和ケアチームの活動

緩和ケアチーム専従
がん性疼痛看護認定看護師 兼子美穂



平成25年4月、北海道社会保険病院に緩和ケアチームが設置され、3ヶ月がたちました。これまでチームで日々話し合いを重ねながら、手探りの活動をすすめております。ここではその活動内容について、少し触れさせていただきたいと思います。

～北海道社会保険病院の緩和ケアチームメンバー～

- | | |
|---------------------|---------------|
| ●身体症状担当医師 原田 中西 | ●薬剤師 新木 |
| ●精神症状担当医師 小熊(非常勤) | ●理学療法士 館 |
| ●看護師 | ●管理栄養士 瀧川 |
| 兼子(専従・がん性疼痛看護認定看護師) | ●ソーシャルワーカー 佐藤 |
| 大槻(がん性疼痛看護認定看護師) | ●企画室 鳴海 |
| 宗山(がん化学療法看護認定看護師) | |
| 本間(地域連携相談室) | |

4月より精神科医師(非常勤)が加わり、精神症状の相談体制も整いました。現在は入院されているがん患者さんを中心に活動しております。

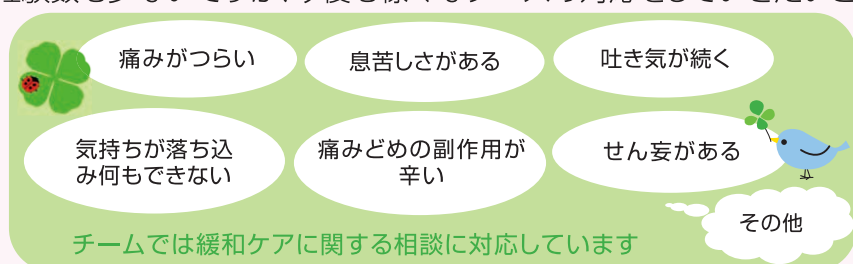
～チームカンファレンス～

緩和ケアチームでは、毎週1回定期的にチームメンバーが集合し、対象患者さんの状態を共有し症状を和らげるために、多職種が専門性をもって様々な視点から意見交換を行っております。必要に応じて担当者を決め、直接患者さんのもとへラウンドも行っております。北海道社会保険病院には緩和ケア病棟はありませんが、各病棟からの相談に応じて活動しております。



～緩和ケアチームの介入ケース～

患者さん・ご家族の「つらさ」を和らげることを目的としているため、病状の進行程度は問いません。まだチームとしての経験数も少ないですが、今後も様々なケースの対応をしていきたいと思っております。



～がんに関する様々な相談～がん相談の対応もしています～

北海道社会保険病院では「北海道がん診療連携指定病院」の指定を受け、地域連携相談室窓口では、がん相談をお受けしております。緩和ケアチーム専従看護師も相談対応を行っております。地域連携相談室では、患者さん・ご家族からのがんに関する不安や悩み、緩和ケアに関すること、その他様々な相談に、専門の知識を持った看護師やソーシャルワーカーが応じております。

〈相談例〉

- 治療について説明を受けたが、十分に理解できなかった
- 今後の治療や過ごし方について相談したい
- 緩和ケア、緩和ケア病棟のある病院について知りたい
- 在宅で過ごしたいがどうすれば良いかわからない
- 家族としてどのように対応してよいかわからない
- 医療費や仕事について不安がある

その他、様々なご相談に応じております。

北海道社会保険病院では、患者さん・ご家族が地域で安心して生活が続けられるよう、より良い連携に向けて努力したいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

地域連携相談室

- 様々なご相談に応じますので窓口へ声をかけてください。
専任のソーシャルワーカー・看護師が対応いたします。

・退院に向けた準備のこと
・セカンドオピニオンのこと
・介護のこと
・医療費や制度、サービスのこと
・訪問看護、訪問診療のこと

- がんの症状・治療・緩和ケアのことについてもご相談ください。
当病院では緩和ケアチームによる診療が受けられます。
- その他のご相談は、担当者にご案内いたします。

受付時間 9:00～17:00

責任者:地域連携相談室長

健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたって健康教室を開催しております。
医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。
どなたでも無料でご参加いただけます。

場所 外来棟1階ホスピタルモール
(エスカレーター裏側)

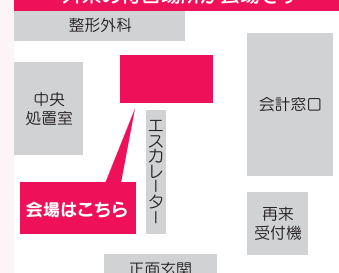
時間 11:30～12:00

予約 予約はいりません。
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、ホームページやチラシをご覧ください。



外来の待合場所が会場です



❀ 健康教室から看護師のお話です ❀

〈在宅医療の は・て・な？〉 在宅でできる医療処置と 在宅医療を支える訪問看護について

地域連携相談室 大宮 啓子

最近、病気や障害があっても、住み慣れた自宅で自分らしく過ごしたいと思い、在宅療養に移行する人が増えています。医療技術の進歩により、自宅でも高度な医療機器が扱えるようになったことで今後もますます在宅医療は普及するといえます。在宅で行われている医療処置には次のようなものがあります。

- 中心静脈栄養法、点滴静脈注射、自己注射
- 胃ろう、経管栄養
- 痰の吸引・吸入
- 褥瘡や創傷処置
- 在宅酸素療法・人工呼吸器
- 自動腹膜還流装置・透析液供給装置
- 人工肛門・人工膀胱・尿留置カテーテル ……など。

在宅で医療処置を行うときは、主治医から在宅医療の必要性について説明があり、看護師から医療処置の手順や注意事項について説明します。外来受診の際には医師の診察や看護師の問診で困りごとがないか確認します。

しかし、在宅医療について『教えてもらったけれど自信がない』『ちょっと相談したいことがあるけれど病院に電話してもいいのかな?』『体調が悪くなったときどうしたらいいの?』と思う方もいると思います。

そんなとき「訪問看護」を利用するという方法があります。訪問看護は、看護師が患者さんのお住まいを訪問し療養生活を送っている方の看護を行うサービスで、乳幼児から高齢者まで、主治医が訪問看護の必要性を認めた全ての方が対象となります。訪問看護ステーションの看護職員がご自宅を訪問して、病状、健康状態の管理、医療処置や治療上の看護療養生活の相談・支援などを行います。また、リハビリを行ったりご家族の相談役になってもらうこともできますし、終末期のケア・看取りに関わることも支援いただけます。継続的に医療処置が必要な方にとっては心強いサポーターです。

訪問看護の利用にはいくつかの準備が必要になりますので、『訪問看護を利用してみたい』『詳しいお話を聞きたい』と思われた方は、地域連携相談室・看護師がお話を伺いますので、お気軽にご相談下さい。

感染対策室

感染対策室長 堀 由美

以前は病院内での感染を「院内感染」などと称していましたが最近では病院だけではなく他の関連施設での感染も含めるようになり、「医療関連感染」と言われるようになりました。このような感染が起こると、患者さんや職員の身体的、精神的苦痛だけではなく、医療経済的にも医療費の増加などのような多くの不利益が生じます。

感染管理を行うことは病院にとって、今や最も重要で不可欠な活動といえます。当院ではこの感染対策の実施のために感染対策室と感染防止対策チームが活動しています。2010年12月感染管理認定看護師(ICN;infection control nurse)が感染対策室に専従配置されました。ICNには、病院内のすべての人(外来入院患者さん、ご家族、職員、訪問者)を感染から守るための活動をする役割があります。また対策チームには兼任ではありますが医師、看護師(2名)、臨床検査技師、薬剤師が配属され、ミーティングを行い、院内検出細菌の把握、使用抗菌薬の状況把握、アウトブレイクの監視などを行っています。

院内に対する具体的な活動としては、このミーティングの内容を参考にして、職員への感染防止技術の教育、実践状況の確認(ラウンド)、情報提供、感染対策に関する相談、種々の感染のサーベイランスの実施、針刺し・切創対策等の職業感染対策などがあります。特に必要時には看護部門の感染対策推進役リンクナースと力を合わせ活動しています。もしも重要な耐性菌が検出されたり、これによる一部病棟でのアウトブレイクが確認された場合は、対策チームが直ちに対策を判断し、実行に移すことにより、それ以上の交差感染を防ぐことが出来ます。

2012年度より他の医療機関との連携を開始しています。現在は、近隣の8医療機関と連携し年に4回の感染対策合同カンファレンスを行い、相互評価によりお互いに可能な対策の改善を行っています。それぞれの医療機関での取り組みから学ぶことは多く、とても刺激になっております。

感染対策は、病院職員が一丸となり実践しなくてはなりません。“いつもみんなで実践”を目標に今後も活動していきます。



感染対策室メンバー



8医療機関との合同カンファレンス

症例検討会のお知らせ

北海道社会保険病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

第35回

札幌南部呼吸器懇話会

日 時:平成25年10月22日(火) 18:30～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂

第35回

リバーサイド消化器懇話会

日 時:平成25年11月19日(火) 18:30～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂

第23回

豊平・清田・南区循環器懇話会

日 時:平成25年11月26日(火) 19:00～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室まで
お問い合わせください。

症例検討会を実施しました

第34回

札幌南部呼吸器懇話会

日 時:平成25年6月18日(火) 18:30～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂
参加者:院外13名 院内31名
講 演:「東日本大震災における在宅医療
支援の経験 ―呼吸器疾患を中心に―」
西岡水源池通りクリニック
院長 寺本 信先生



第22回

豊平・清田・南区循環器懇話会

日 時:平成25年6月25日(火) 19:00～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂
参加者:院外20名 院内22名
講 演:「大動脈ステントグラフト内挿術の
中期成績」
手稲溪仁会病院 心臓血管外科大動脈
血管内治療センター長 栗本 義彦先生



第34回

リバーサイド消化器懇話会

日 時:平成25年7月23日(火) 18:20～
場 所:北海道社会保険病院 3階講堂
参加者:院外14名 院内35名
講 演:「当センターにおける除菌
治療の現況」
北海道社会保険病院
消化器センター 定岡 邦昌先生



災害救急指定日

平成25年9月10日(火)・9月22日(日)・10月8日(火)・10月20日(日)

二次救急指定日

循環器・呼吸器系

平成25年9月27日(金)・10月3日(木)

消化器系

平成25年9月16日(月)・10月13日(日)

小児系

平成25年9月11日(水)・9月23日(月)
10月11日(金)

変更になる場合がございます。当日の新聞等で確認をお願いいたします。



北海道社会保険病院
地域連携相談室

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18
TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://www.hok-shaho-hsp.jp/>
〈医療機関専用:地域連携相談室直通〉TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005